

2022年3月期 第3四半期決算説明会



ALTO

スズキ株式会社

2022.2.4

第3四半期実績

…前期比増収増益、前々期に対しては減収減益（営業利益）

(億円)	当期 (’21/4-12)	前期 (’20/4-12)	増 減		補足	前々期 (’19/4-12)	増 減	
				増減率				増減率
売上高	25,743	21,755	+ 3,988	+ 18.3%	3期振り増収	26,261	▲517	▲2.0%
営業利益 (利益率)	1,467 (5.7%)	1,388 (6.4%)	+ 79	+ 5.7%	4期振り増益	1,704 (6.5%)	▲238	▲13.9%
経常利益 (利益率)	2,039 (7.9%)	1,749 (8.0%)	+ 290	+ 16.6%	3期振り増益	1,948 (7.4%)	+ 91	+ 4.7%
当期純利益 [※] (利益率)	1,358 (5.3%)	1,132 (5.2%)	+ 226	+ 19.9%	3期振り増益	1,166 (4.4%)	+ 192	+ 16.5%

- ・売上高増加 … 半導体を含む部品供給不足の一方、前年同期が新型コロナウイルス影響により大幅減だったため増収
- ・営業利益増益 … 原材料価格高騰があったが、売上高増加等により増益
- ・当期純利益増益… 経常利益増益に加え、特別損益の改善（前年同期が新型コロナウイルス関連損失▲154億円計上に対し、当期は旧豊川工場跡地売却益+180億円）等により増益

世界 販売	四輪車	1,949千台	1,756千台	+ 193千台	+ 11.0%	インド、パキスタン、欧州等で増加	2,160千台	▲211千台	▲9.8%
	二輪車	1,206千台	1,117千台	+ 89千台	+ 8.0%	インド、中国等で増加	1,344千台	▲138千台	▲10.3%

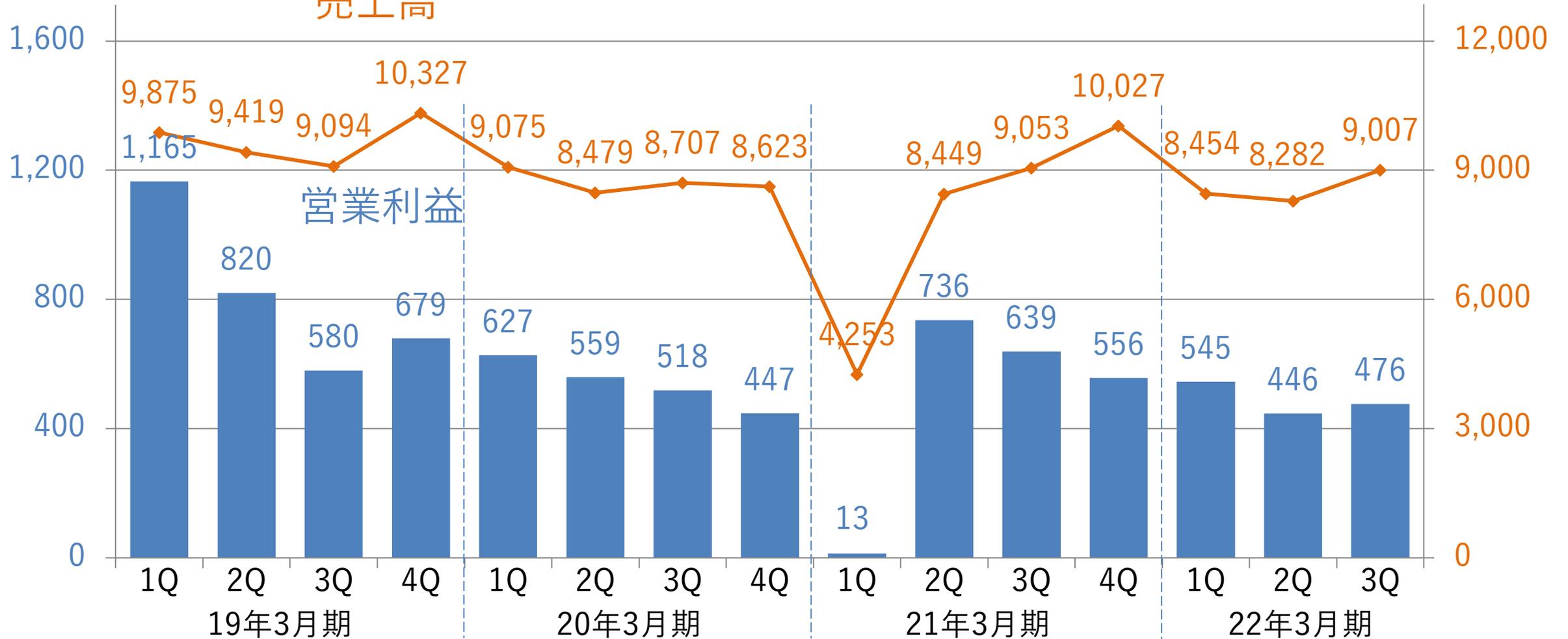
※ 当期純利益は親会社株主に帰属する四半期純利益

(営業利益・億円)

(売上高・億円)

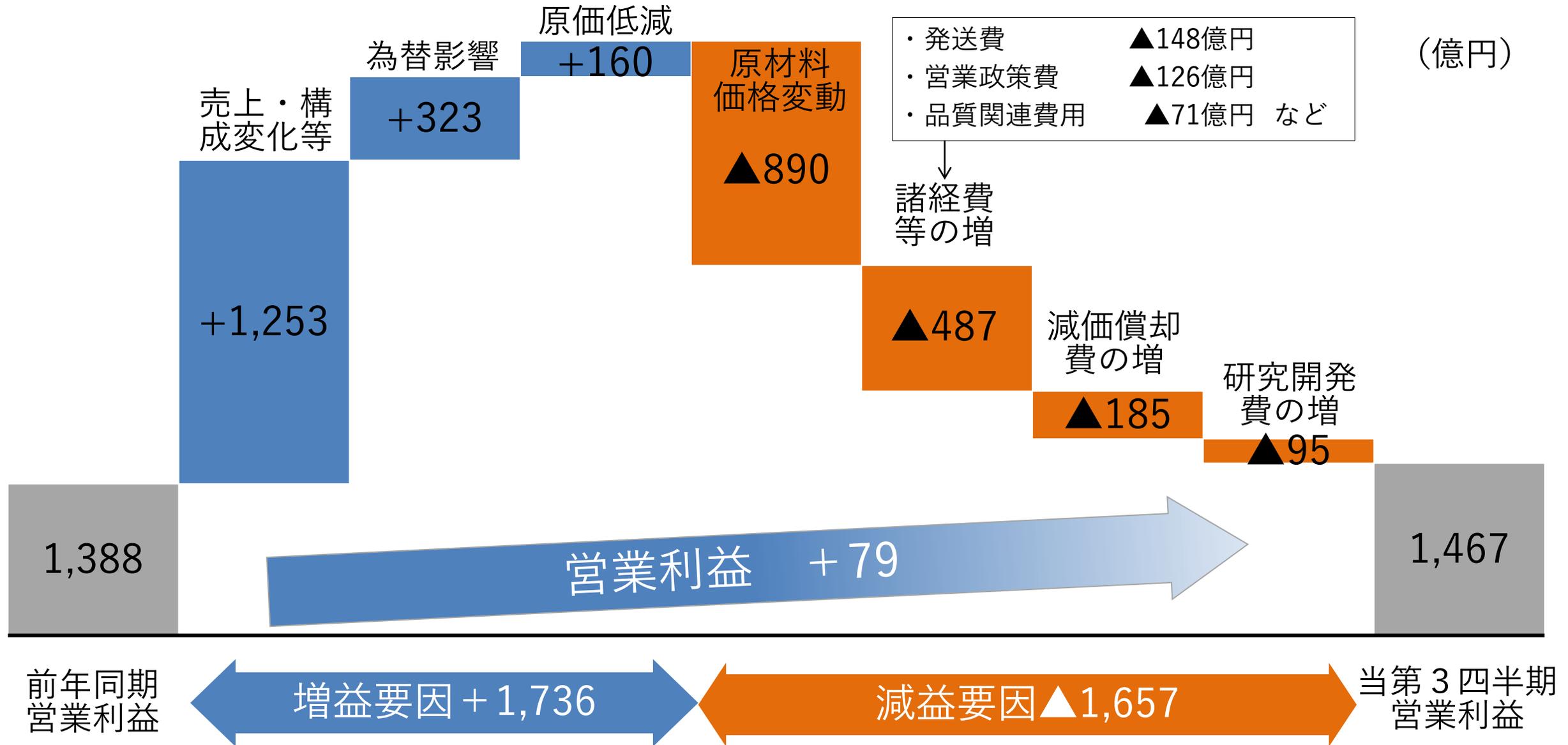
売上高

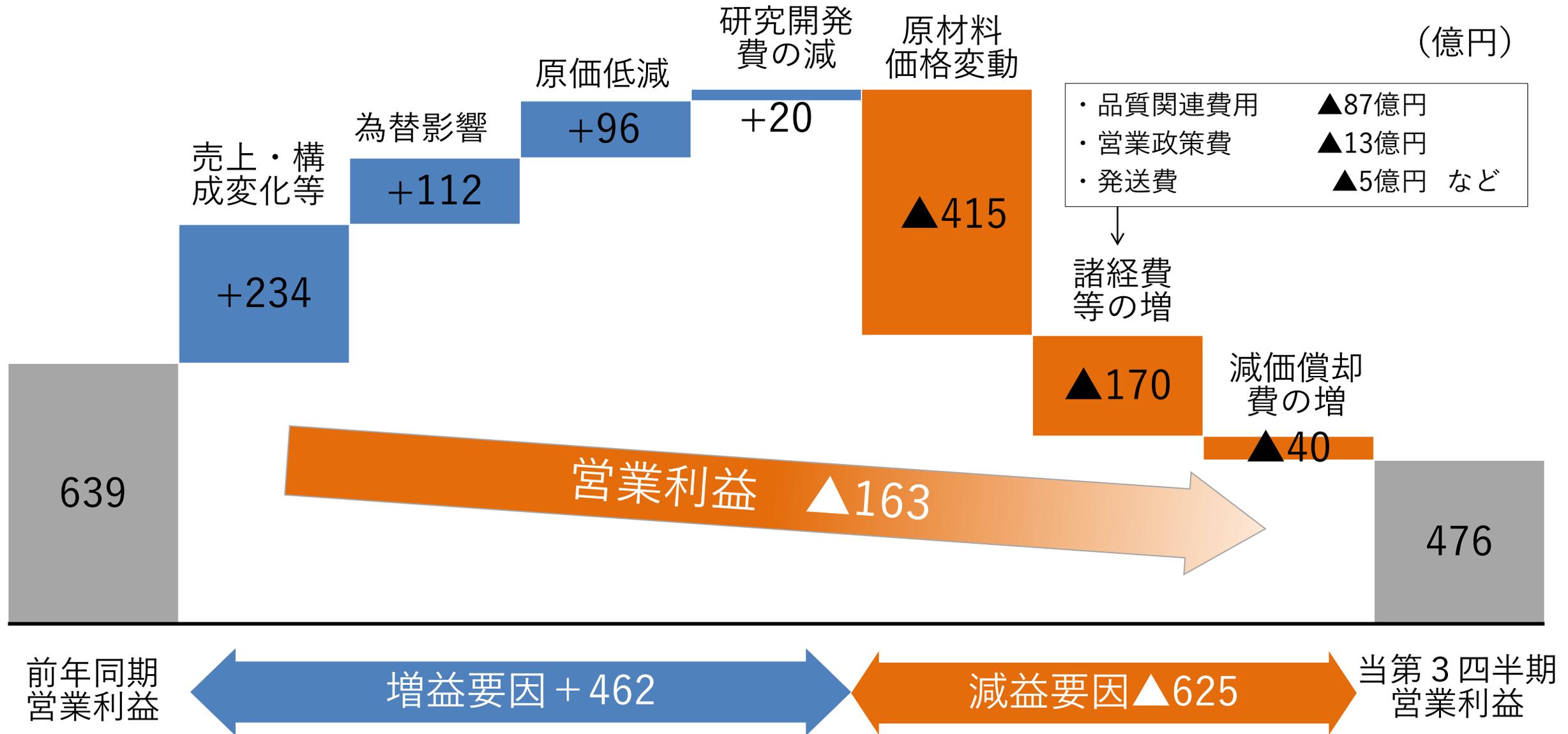
営業利益



(億円)	四輪			二輪			マリン			その他			合計			内、為替 換算影響
	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	
国内計	7,593	7,940	▲347	167	148	+19	24	28	▲4	91	87	+4	7,875	8,203	▲328	
自 社	6,984	7,294	▲310	167	148	+19	24	28	▲4	91	87	+4	7,266	7,557	▲291	
O E M	609	646	▲37										609	646	▲37	
海外計	15,521	11,678	+3,843	1,670	1,306	+364	677	568	+109				17,868	13,552	+4,316	+1,035
欧 州	2,818	2,589	+229	217	228	▲11	160	123	+37				3,195	2,940	+255	+208
北 米	5	7	▲2	211	177	+34	335	301	+34				551	485	+66	+28
アジア	10,170	7,890	+2,280	910	679	+231	86	88	▲2				11,166	8,657	+2,509	+587
インド	7,724	6,031	+1,693	445	331	+114	5	4	+1				8,174	6,366	+1,808	+433
〃以外	2,446	1,859	+587	465	348	+117	81	84	▲3				2,992	2,291	+701	+154
その他	2,528	1,192	+1,336	332	222	+110	96	56	+40				2,956	1,470	+1,486	+212
総合計	23,114	19,618	+3,496	1,837	1,454	+383	701	596	+105	91	87	+4	25,743	21,755	+3,988	+1,035
内、為替換算影響			+914			+86			+35							+1,035

注. 当期…2021年4～12月期、前期…2020年4～12月期、北米…米国・カナダ、北米四輪車…部品用品等



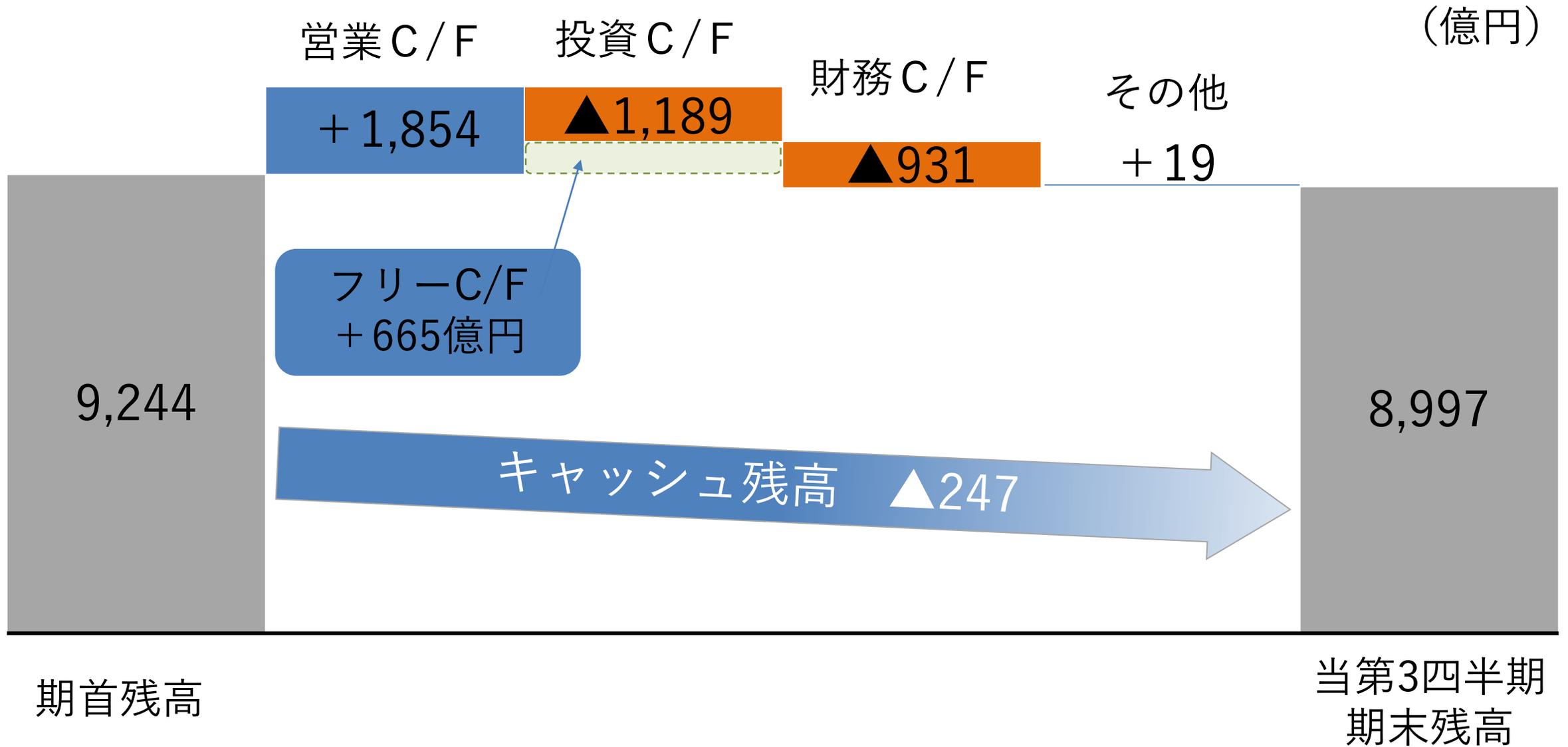


	当第3四半期 ('21/4-12)	前第3四半期 ('20/4-12)	増 減	営業利益 為替影響
ユーロ	131円	122円	+ 9円	+ 78億円
インドルピー	1.51円	1.43円	+ 0.08円	+ 42億円
メキシコペソ	5.48円	4.84円	+ 0.64円	+ 36億円
南アフリカランド	7.56円	6.33円	+ 1.23円	+ 33億円
米ドル	111円	106円	+ 5円	+ 31億円
オーストラリアドル	83円	74円	+ 9円	+ 25億円
ポンド	153円	136円	+ 17円	+ 21億円
パキスタンルピー	0.68円	0.65円	+ 0.03円	+ 12億円
ニュージーランドドル	78円	70円	+ 8円	+ 11億円
その他※	—	—	—	+ 34億円
計				+ 323億円

※その他…インドネシアルピア + 9億円、台湾ドル + 5億円他

	当第3四半期 ('21/4-12)	前第3四半期 ('20/4-12)	増 減
(当社単独)	386億円	413億円	▲27億円
(子会社)	908億円	804億円	+104億円
設備投資	1,294億円	1,217億円	+77億円
減価償却費	1,059億円	968億円	+91億円
研究開発費	1,124億円	1,029億円	+95億円

	当第3四半期末 ('21/12末)	前第3四半期末		前期末	
		('20/12末)	増 減	('21/3末)	増 減
有利子負債残高	7,330億円	7,853億円	▲523億円	7,708億円	▲378億円
連結子会社数	119社	121社	▲2社	120社	▲1社
持分法適用関連会社数	32社	29社	+3社	31社	+1社
従業員数	69,460人	69,504人	▲44人	68,739人	+721人



(億円)

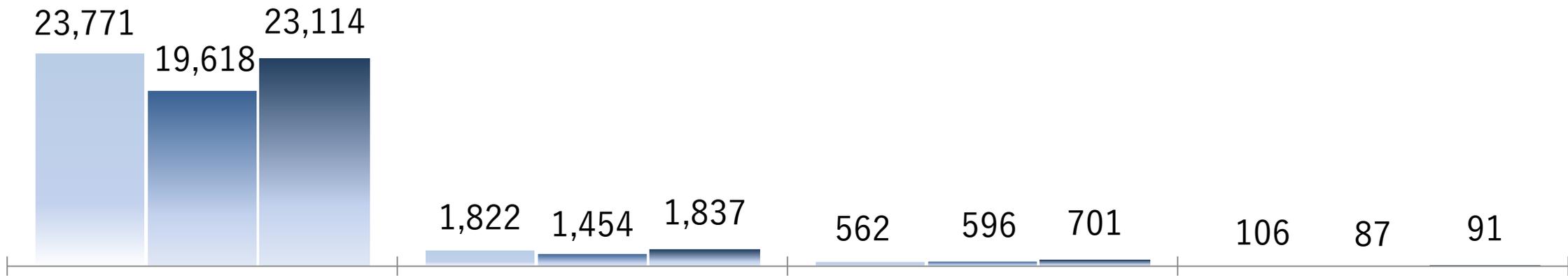
《四輪》
前年同期比較
+ 3,496(+ 17.8%)

《二輪》
前年同期比較
+ 383(+ 26.3%)

《マリン》
前年同期比較
+ 105(+ 17.5%)

《その他》
前年同期比較
+ 4(+ 4.5%)

売上高



営業利益



前年同期比較
▲109(▲8.6%)

前年同期比較
+ 106(-)

前年同期比較
+ 72(+ 62.6%)

前年同期比較
+ 10(+ 44.0%)

前々期 前期 当期
'19/4-12 '20/4-12 '21/4-12

(億円)

《四輪》
前年同期比較
▲151(▲1.8%)

《二輪》
前年同期比較
+84(+14.9%)

《マリン》
前年同期比較
+20(+10.9%)

《その他》
前年同期比較
+1(+3.5%)

売上高

7,957 8,279 8,128

557 563 647

164 182 202

29 29 30

前年同期比較
▲197(▲34.4%)

前年同期比較
+1(+7.8%)

前年同期比較
+30(+83.3%)

前年同期比較
+3(+31.8%)

営業利益

505 574 377

▲17 22 23

23 36 66

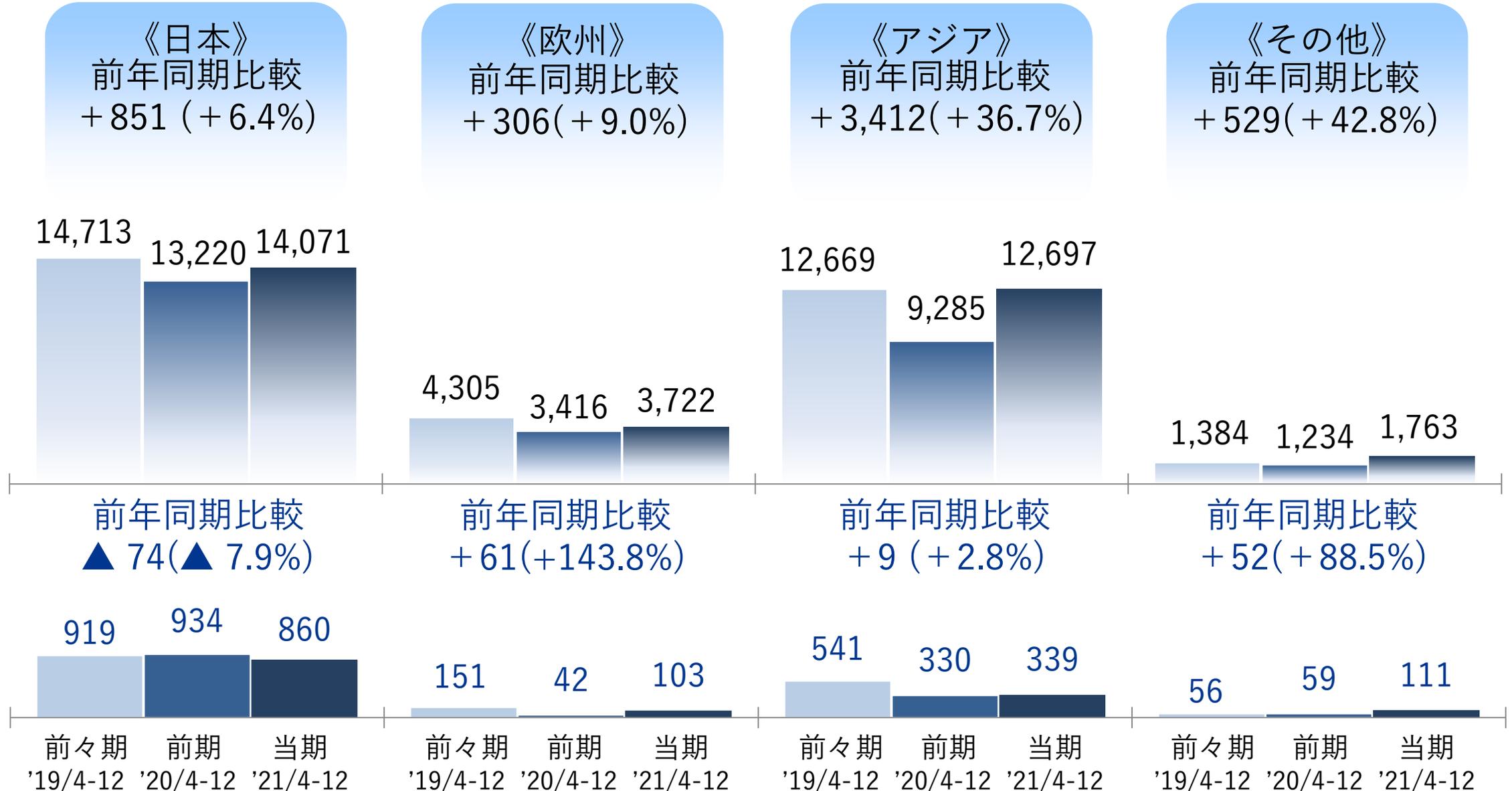
8 7 10

前々期	前期	当期									
'19/10-12	'20/10-12	'21/10-12	'19/10-12	'20/10-12	'21/10-12	'19/10-12	'20/10-12	'21/10-12	'19/10-12	'20/10-12	'21/10-12

(億円)

売上高

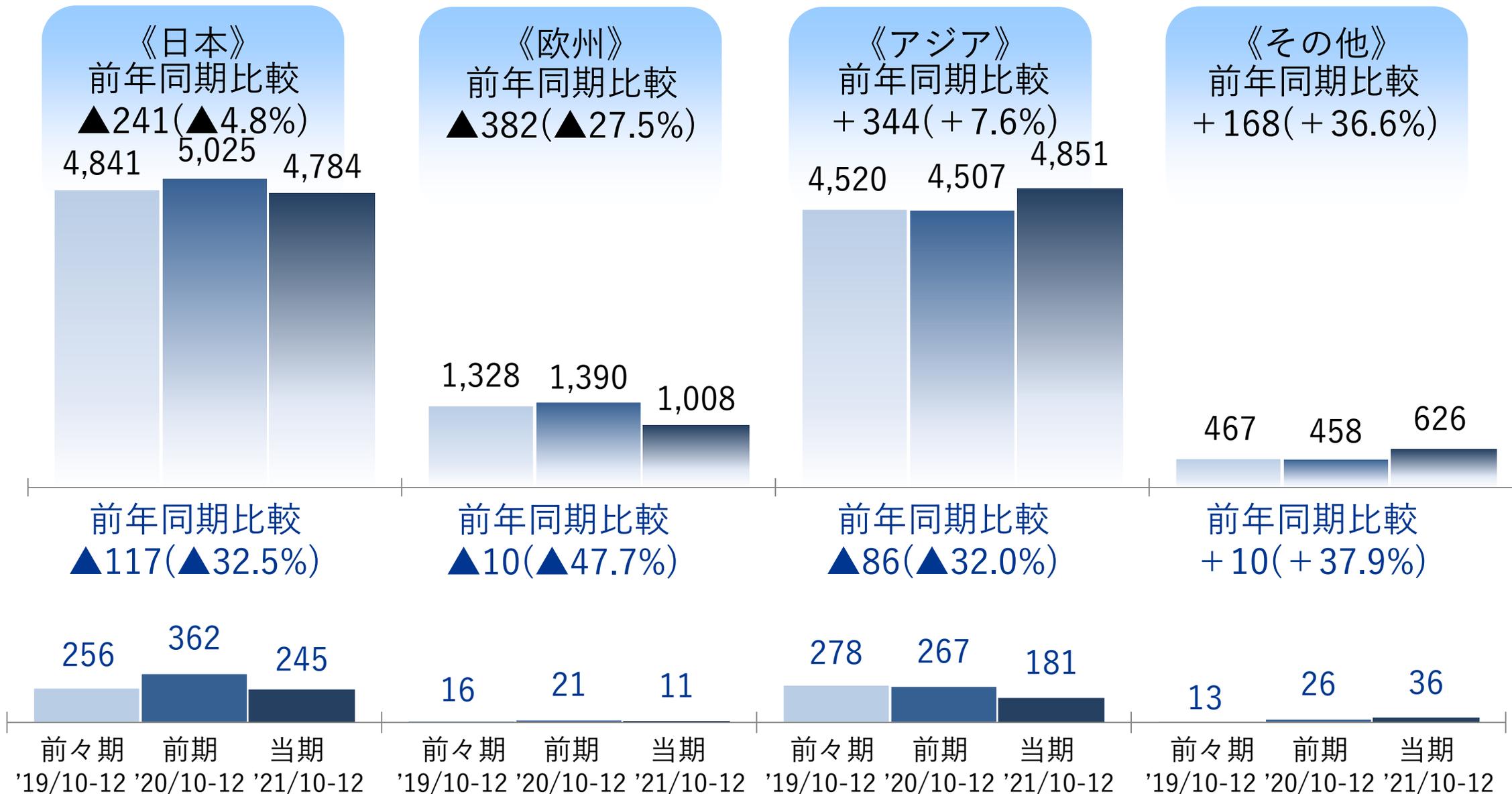
営業利益



(億円)

売上高

営業利益



		ルピー建 (億ルピー) ※1			円換算額 (億円)		
		当第3四半期	前第3四半期	増減	当第3四半期	前第3四半期	増減
連 結 業 績	売上高	5,829	4,361	+ 1,468	8,801	6,237	+ 2,564
	営業利益※2 (利益率)	111 (1.9%)	106 (2.4%)	+ 5	168 (1.9%)	152 (2.4%)	+ 16
	税前利益 (利益率)	246 (4.2%)	394 (9.0%)	▲148	371 (4.2%)	563 (9.0%)	▲192
	当期純利益 (利益率)	200 (3.4%)	315 (7.2%)	▲115	303 (3.4%)	450 (7.2%)	▲147
	為替レート	1.51円	1.43円	+ 0.08円			
卸 販 売	国内販売※3	994千台	905千台	+ 89千台			
	輸出※3	170千台	61千台	+ 109千台			
	合計	1,164千台	966千台	+ 198千台			

※1. ルピー建は、1月25日付でマルチ・スズキ・インディア社が発表した連結業績値

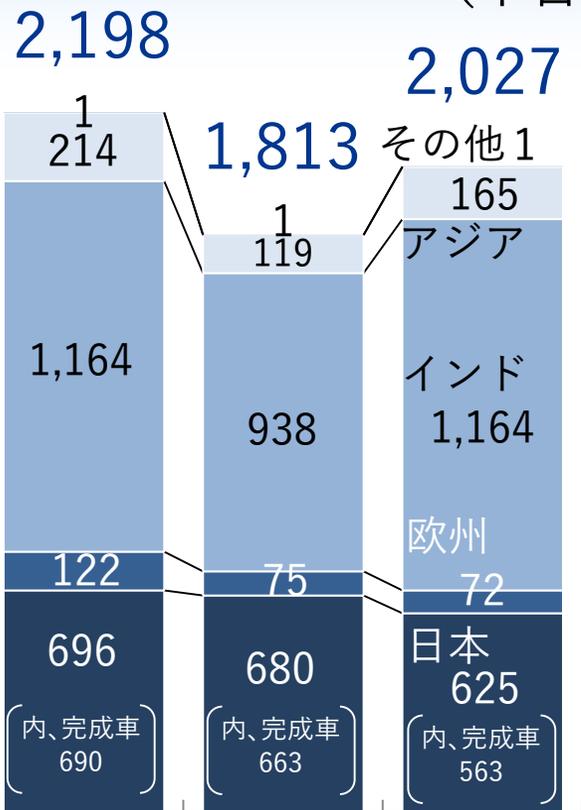
※2. 営業利益は次式により算出
Sales of product
+ Other operating revenues
- Total Expenses
+ Finance costs

※3. 国内販売および輸出はOEMを含む

《生産実績》

+ 215千台 (+12%)

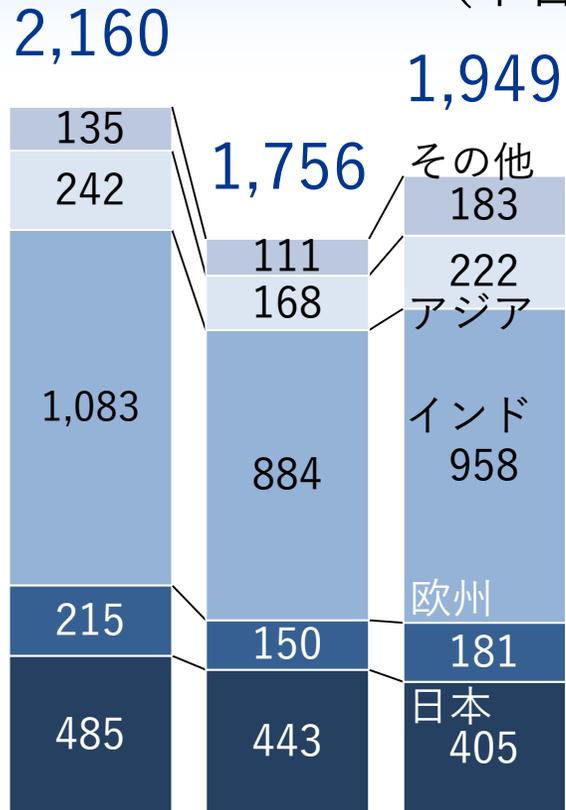
(千台)



《販売実績》

+ 193千台 (+11%)

(千台)



● 当期の世界販売

・世界販売 1,949千台 (前年同期比+11.0%)

(世界販売の内訳)

インド	958千台	(〃	+ 8.4%)
日本	405千台	(〃	▲ 8.8%)
欧州	181千台	(〃	+ 20.5%)
アジア(除インド)	222千台	(〃	+ 32.2%)
その他	183千台	(〃	+ 65.8%)

(インドを除くアジアの内訳)

パキスタン	95千台	(〃	+108.1%)
インドネシア	70千台	(〃	+ 49.2%)
タイ	17千台	(〃	▲ 9.5%)
その他	40千台	(〃	▲ 28.9%)

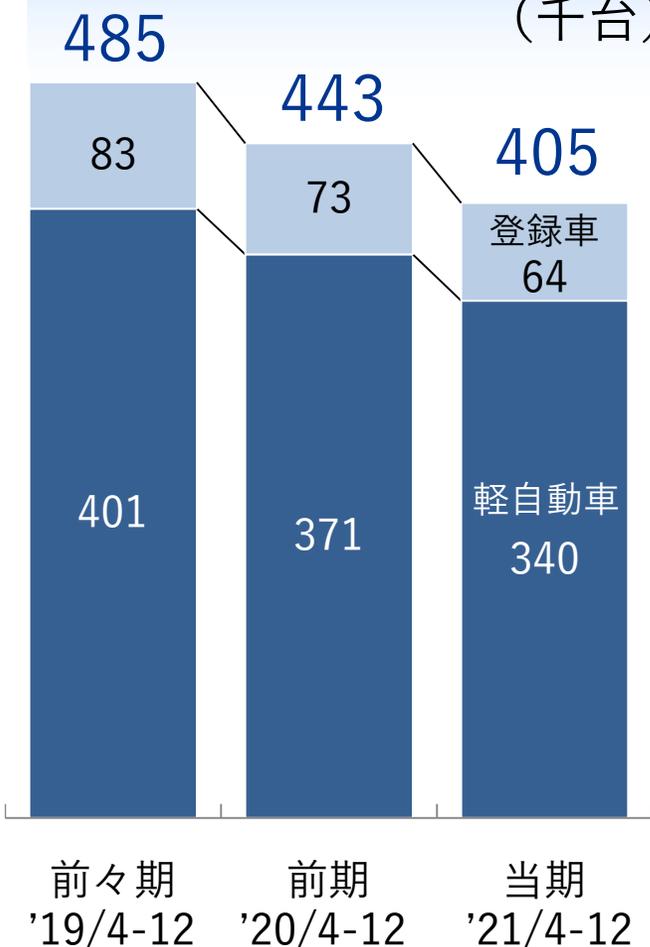
前々期 '19/4-12 前期 '20/4-12 当期 '21/4-12

前々期 '19/4-12 前期 '20/4-12 当期 '21/4-12

《第3四半期比較》

▲39千台 (▲9%)

(千台)



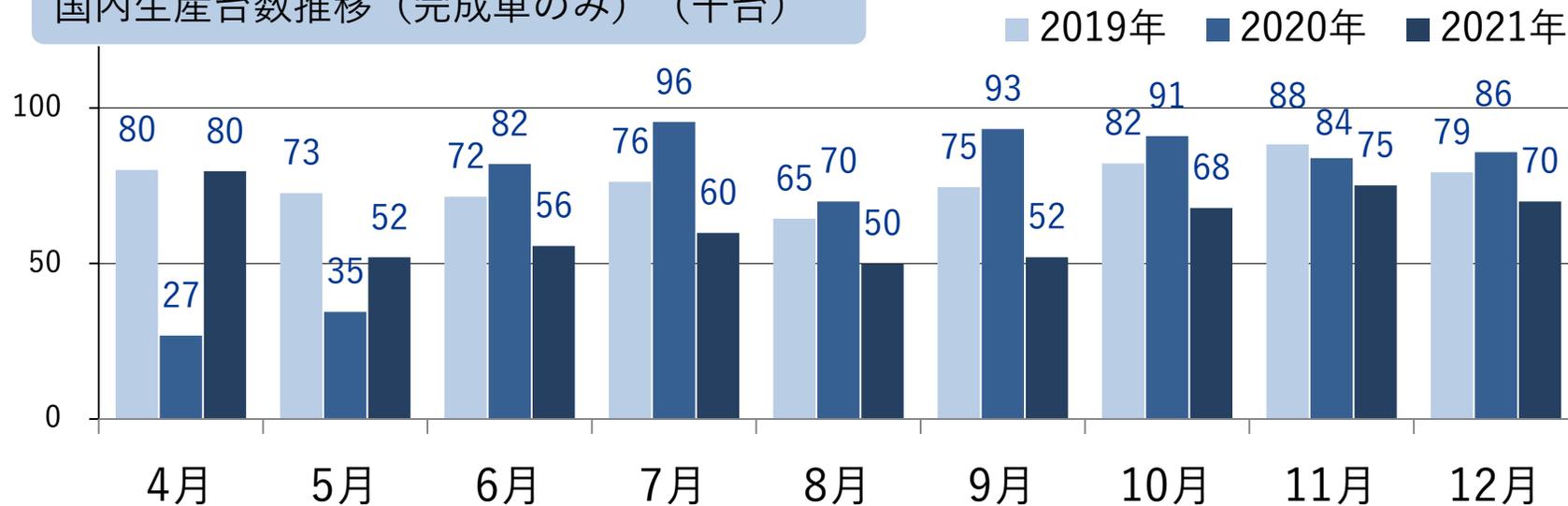
●当期の日本販売

- 当期の国内四輪販売台数は、半導体を含む部品供給不足により生産台数が落ち込んだことから、4~12月合計では前年同期比▲8.8%、コロナ前の前々期に対しては▲16.6%の減少。

●当期の国内工場の稼働状況

- 国内工場では5月以降の部品供給不足による工場の生産停止が継続し、販売に影響。10~12月期の国内完成車生産台数は213千台で期初社内予算比ではおよそ80%。

国内生産台数推移 (完成車のみ) (千台)



● スズキコネクト

- ・ 2021年12月24日発売のスペーシアシリーズより、コネクテッドサービス「スズキコネクト」を開始
 - ① オペレーターサービス…緊急通報、トラブルサポート
 - ② スズキコネクトアプリ…スマートフォンでエアコンなどのリモート操作や、駐車位置・運転履歴の確認が可能
- ・ コネクテッドカーから送信される警告灯の点灯状態やメンテナンス情報の共有が可能な「スズキコネクト店」を新設



6ヶ月 ¥ スズキ 定額マイカー



● スズキ定額マイカー

- ・ 2022年1月26日より、中古車のサブスクリプションサービス「スズキ定額マイカー」を開始
- ・ 月額税込み29,000円～、契約期間は6か月で気軽な利用を提供
- ・ お申込みから契約、登録手続きまで専用サイトおよび郵便を用いた非対面形式で完結
- ・ スズキの予防安全技術「スズキセーフティサポート」を搭載

● 新型アルトについて

- ・ 2021年12月22日より、新型「アルト」発売開始
- ・ 1979年発売の初代以来、国内累計販売台数は約526万台を突破（2021年12月末現在）
- ・ R06D型エンジンとマイルドハイブリッド※1の搭載でさらなる低燃費を実現し、WLTCモード燃費では軽自動車トップ※2の27.7km/L
- ・ 運転しやすく、使い勝手がよく、経済性の高い実用的な軽自動車

● 「生活の足」にこだわる

- ・ スズキ中期経営計画～「小・少・軽・短・美」～では、世界の「生活の足」を守り抜くことを宣言
- ・ 日本の軽自動車は地域の足、生活の足として必要不可欠
- ・ 人々の生活に寄り添って地域の移動を支える、なくてはならない存在であり続ける

※1 HYBRID S、HYBRID Xに搭載

※2 軽自動車クラス。WLTCモード走行燃費（国土交通省審査値）に基づく。HYBRID S、HYBRID Xの2WD車。2021年12月現在スズキ調べ

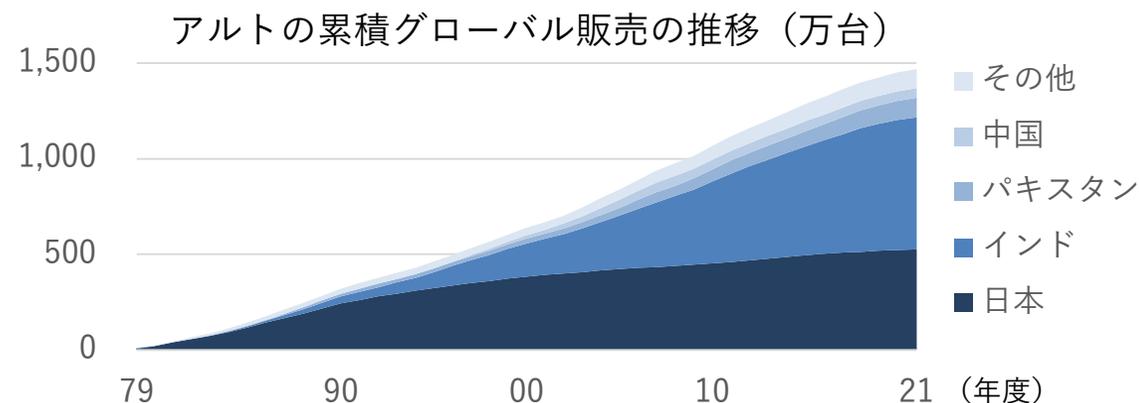
アルトの貢献

<軽自動車の海外展開>

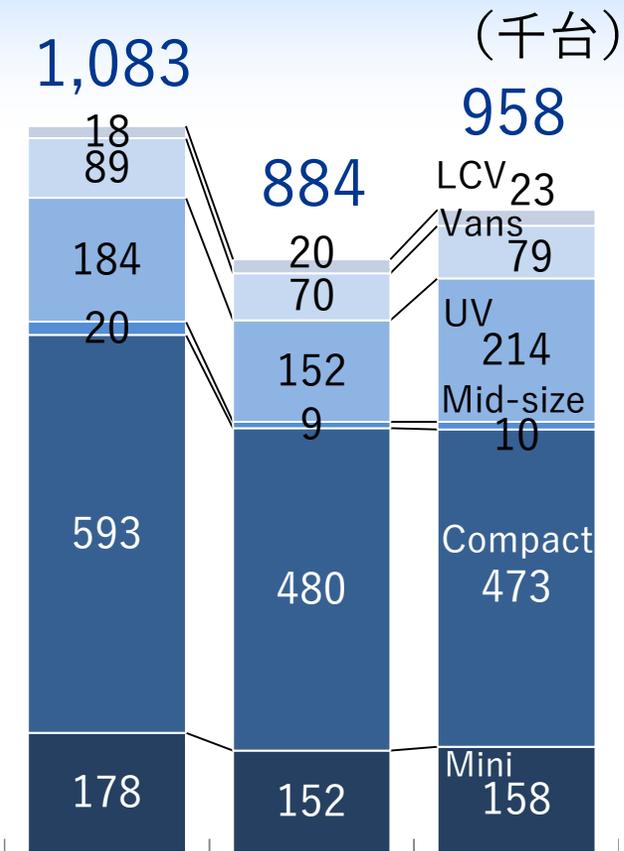
- ・ 軽自動車をベースとした製品は海外でも活躍
- ・ 軽自動車のもつ魅力や技術が海外のモータリゼーションに貢献
- ・ アルトをベースとした製品はこれまで世界で1,470万台以上を販売

<スズキのグローバル展開に貢献>

- ・ 低コストのクルマづくりが評価
→GM提携、インド合弁、ハンガリー進出等、スズキのグローバル展開に貢献



《第3四半期比較》
+74千台 (+8%)



● 当期のインド販売

- ・ 前年同期がインド全土における大規模なロックダウンの影響を受けていたため、前年同期比では+8.4%
- ・ 一方、ロックダウンによる販売店の稼働制約、半導体を含む部品供給不足による生産減の影響を受けたため、コロナ前の前々年同期比では▲11.6%

● C N G 車 (圧縮天然ガス車) の積極展開

- ・ スズキは低価格で低CO2排出のCNG仕様車を豊富にラインナップ
- ・ インド政府もカーボンニュートラル達成に向けてCNG車の活用を掲げる
- ・ 2021年11月発売の新型セレリオにもCNG仕様を設定 (22年1月)

スズキ販売におけるCNG車比率

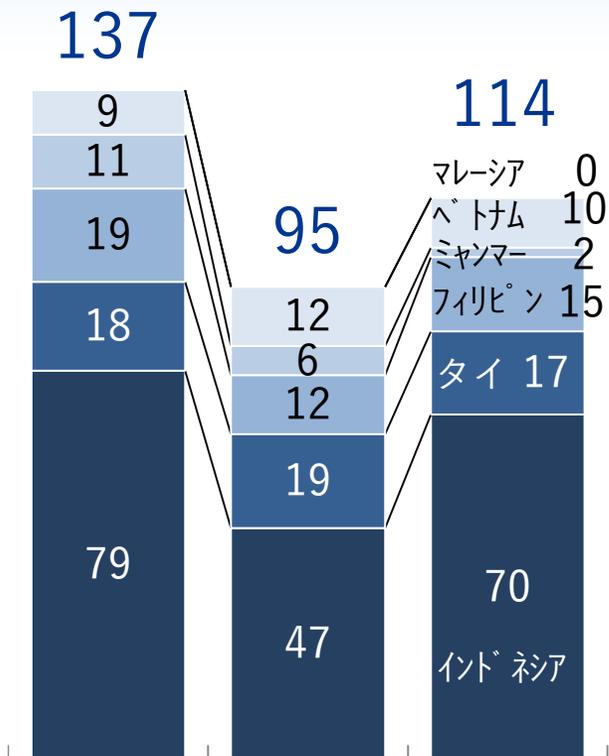
	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期 4-12月
C N G 販売台数	74千台	75千台	105千台	107千台	158千台	148千台
C N G 比率	5%	5%	6%	7%	12%	15%

前々期 '19/4-12
前期 '20/4-12
当期 '21/4-12

注. 商用車含む卸販売実績、OEMを除く
※LCV=Light Commercial Vehicles UV =Utilities Vehicles

《第3四半期比較》

+19千台 (+20%)
(千台)



前々期 '19/4-12 前期 '20/4-12 当期 '21/4-12

※ アセアン：インドネシア、タイ、フィリピン、ミャンマー、ベトナム、マレーシア6ヶ国合計

● 当期のアセアン販売

・当期のアセアン6ヶ国※合計販売台数は114千台（前年同期比+19.8%、前々年同期比▲16.3%）

<インドネシア>

新型コロナ感染拡大に伴う活動制限の影響を受けたが、3月から実施された自動車奢侈税の減免措置もあり前年同期比+49.2%

<タイ>

新型コロナの影響により、前年比、前々年比ともに減少

<フィリピン>

新型コロナの影響は前年より軽微であり、前年比では増加したものの、前々年比では減少

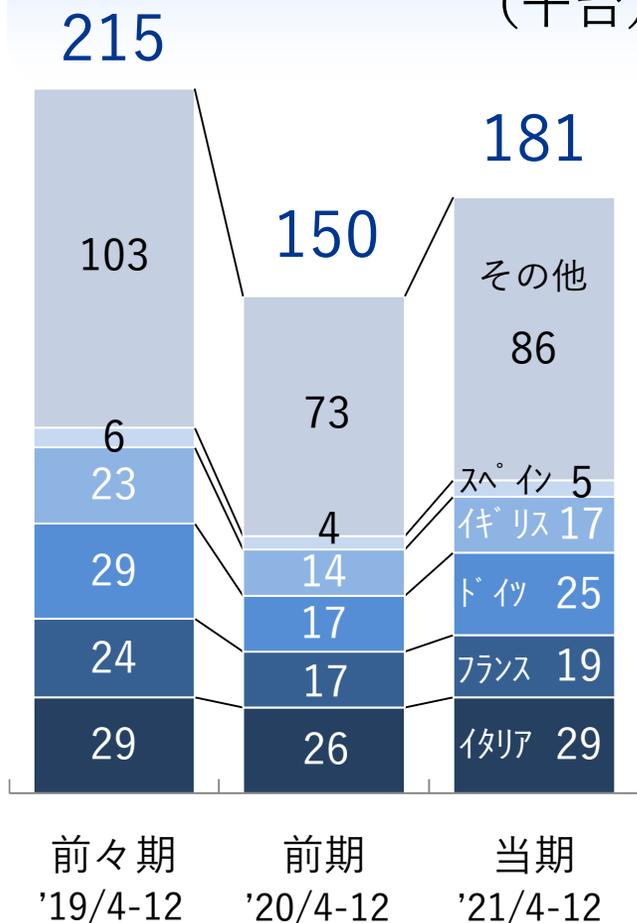
<ミャンマー>

2月以降、政治経済情勢の悪化により、前年同期比で▲57.3%



《第3四半期比較》
+ 31千台 (+ 21%)

(千台)



● 当期の欧州販売

- 前年は多くの国で大規模なロックダウンを実施していたが、当期はワクチン接種が進み販売店も通常稼働し、当期販売は181千台、前年同期比+20.5%。
- 前々年同期比では、半導体を含む部品供給不足による日本やハンガリーでの生産減少の影響により、▲15.7%。

● 新型SUV「S-CROSS」発表

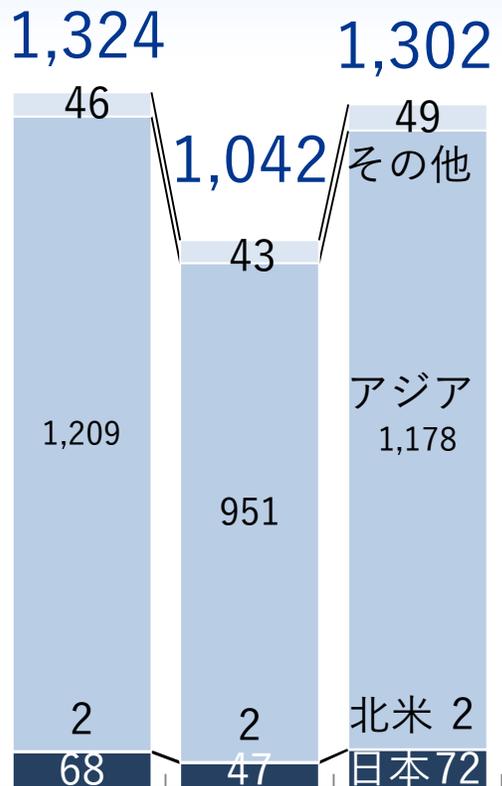
- 「SX4 S-CROSS」を全面改良
- ハンガリー子会社のマジャールズズキ社で生産し、2021年末より欧州での販売を皮切りに中南米、大洋州、アジアへも輸出
- 欧州仕様車には、全車48ボルトSHVSマイルドハイブリッドを採用

VITARA



《生産実績》

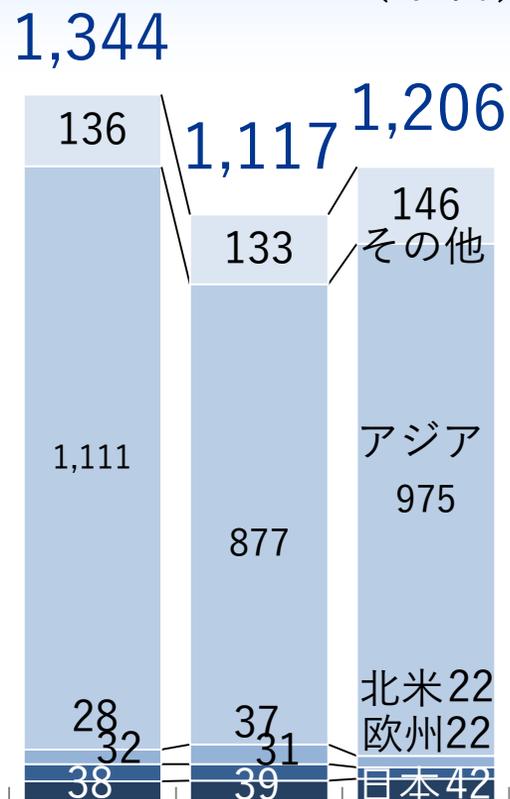
+259千台 (+25%)
(千台)



前々期 '19/4-12 前期 '20/4-12 当期 '21/4-12

《販売実績》

+89千台 (+8%)
(千台)



前々期 '19/4-12 前期 '20/4-12 当期 '21/4-12

● 当期の世界販売

世界販売	1,206千台	(前年同期比 + 8.0%)
アジア	975千台	(// + 11.2%)
日本	42千台	(// + 7.0%)
欧州	22千台	(// ▲ 29.1%)
北米	22千台	(// ▲ 40.8%)
その他	146千台	(// + 9.7%)
(アジアの内訳)		
インド	437千台	(// + 16.2%)
中国	315千台	(// + 9.4%)
フィリピン	117千台	(// + 20.8%)
パキスタン	26千台	(// + 92.2%)
その他	80千台	(// ▲ 21.8%)

- 半導体等の部品不足に伴う生産調整に加え、コンテナ不足等の物流の混乱が出荷に影響

● V-Strom Meeting 2021

- 2021年12月4日、恒例のファンイベントV-Strom Meetingをライブ配信イベントとして開催
- スズキのファンになっていただく活動を続けていく



	(億円)	当期 ('21/4-'22/3)	前期 ('20/4-'21/3)	増 減		補足	前回予想比較	
					増減率		前回予想	増減
連結 業績	売上高	34,000	31,782	+ 2,218	+ 7.0%	3期振り増収	32,000	+ 2,000
	営業利益 (利益率)	1,700 (5.0%)	1,944 (6.1%)	▲244	▲12.6%	4期連続減益	1,700 (5.3%)	± 0
	経常利益 (利益率)	2,300 (6.8%)	2,483 (7.8%)	▲183	▲7.4%	2期振り減益	2,200 (6.9%)	+ 100
	当期純利益 [※] (利益率)	1,500 (4.4%)	1,464 (4.6%)	+ 36	+ 2.4%	2期連続増益	1,500 (4.7%)	± 0

・売上高 … 販売台数予想の修正に伴い上方修正

・営業利益 … 台数、研究開発費、為替前提の見直しによる増益の一方、諸経費等の増や原材料価格高騰を織り込み、据置き

世界 販売	四輪車	2,665千台	2,571千台	+ 94千台	+ 3.6%		2,486千台	+ 179千台
	二輪車	1,617千台	1,535千台	+ 82千台	+ 5.4%		1,633千台	▲16千台

配当	一株当たり 年間配当金	未定	90円	—	—	今後の状況を見極める為、 未定	未定	
----	----------------	----	-----	---	---	--------------------	----	--

※ 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

< 営業利益増減要因 >

(億円)	通期予想
売上・構成変化等	+1,084
為替影響	+360
原価低減	+280
原材料価格変動	▲1,100
研究開発費の増	▲338
諸経費等の増	▲300
減価償却費の増	▲230
計	▲244

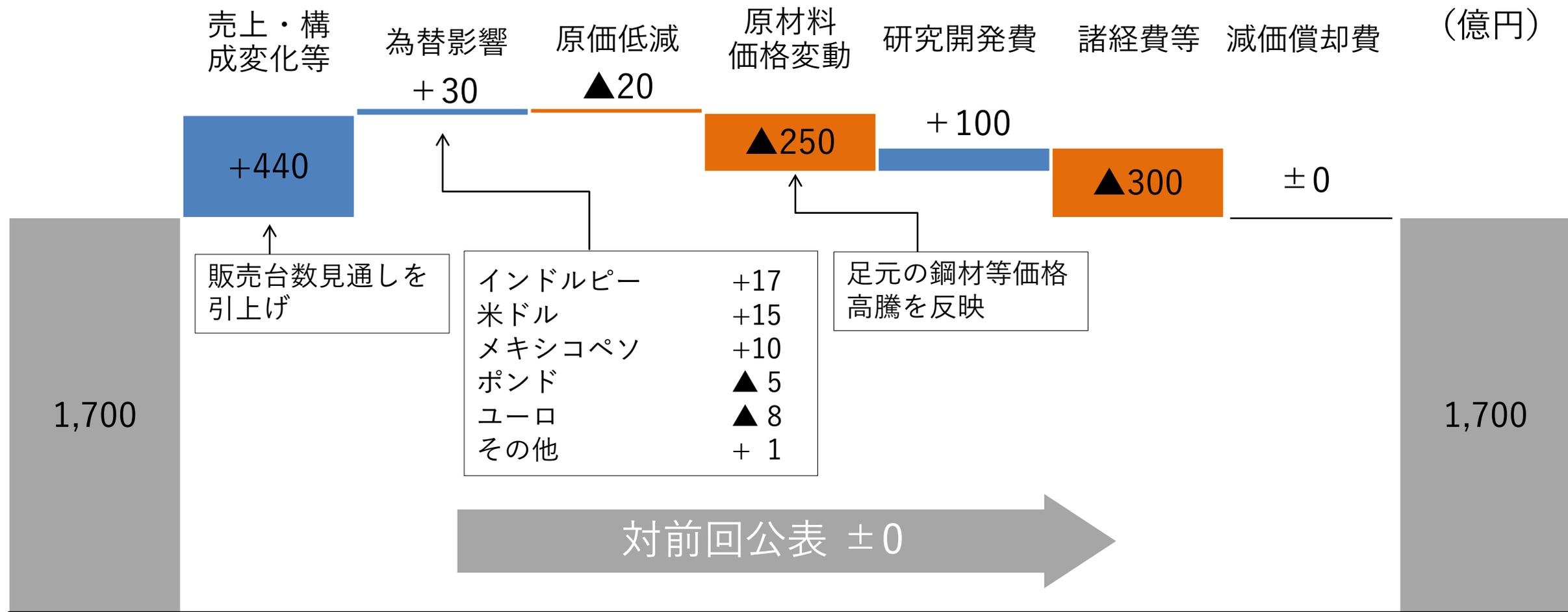
< 設備投資・減価償却費・研究開発費 >

(億円)	通期予想	前期比較	
		前期実績	増減
設備投資	2,300	1,709	+591
減価償却費	1,500	1,365	+135
研究開発費	1,800	1,462	+338

< 為替レート >

	通期予想	前期実績	増減	営業利益 為替影響 (億円)
ユーロ	130円	124円	+6円	+77
インドルピー	1.51円	1.44円	+0.07円	+63
米ドル	112円	106円	+6円	+46
メキシコペソ	5.46円	4.93円	+0.53円	+41
南アフリカランド	7.44円	6.52円	+0.92円	+32
ポンド	152円	139円	+13円	+23
オーストラリアドル	82円	76円	+6円	+22
インドネシアルピア※	0.78円	0.73円	+0.05円	+11
ニュージーランドドル	78円	71円	+7円	+10
パキスタンルピー	0.67円	0.66円	+0.01円	+5
その他通貨	-			+30
為替影響額 計				+360

※インドネシアルピアは100ルピア当たりのレート



22/3通期予想
11月公表値

22/3通期予想
今回公表値

(千台)	生産台数 ※1					販売台数			
	予想 (22/3期)	前年実績		前回予想 からの増減	期初計画 からの増減	予想 (22/3期)	前年実績		前回予想 からの増減
		(21/3期)	増減				(21/3期)	増減	
<四輪車>									
日本	842	930	▲88	+18	▲194	550	647	▲97	+13
欧州	103	110	▲7	▲15		225	206	+19	▲9
アジア	1,877	1,610	+267	+241	▲216	1,655	1,560	+95	+130
その他	1	1	+0	±0		235	159	+76	+45
合計	2,823	2,651	+172	+244	▲410 ※2	2,665	2,571	+94	+179

<二輪車>				
日本	100	67	+33	▲4
欧州	-	-	-	-
北米	3	3	+0	±0
アジア	1,553	1,371	+182	+33
その他	61	57	+4	+10
合計	1,717	1,497	+220	+39

インド四輪の通期販売見通しは前年比+3%

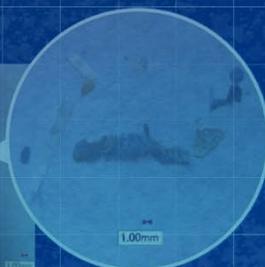
	52	51	+1	+2
	30	39	▲9	▲1
	31	46	▲15	▲2
	1,316	1,225	+91	▲20
	188	174	+14	+5
	1,617	1,535	+82	▲16

※1 四輪車生産台数の期初計画は、半導体不足影響、インドコロナ影響等を考慮していない社内計画値

※2 ▲410千台のうち、半導体を含む部品供給不足の影響は国内▲253千台、海外▲197千台、計▲450千台

2022年3月期 第3四半期決算説明会

CLEAN-UP THE WORLD CAMPAIGN



Micro-Plastic Collecting Device



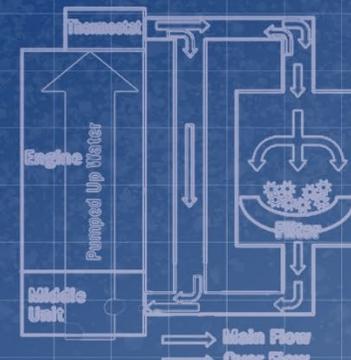
REDUCE PLASTIC PACKAGING

MICRO PLASTIC COLLECTING DEVICE

CURRENT MODEL



WITH MICRO-PLASTIC COLLECTING DEVICE



スズキ株式会社

..... 将来予想に関する注意事項

※このプレゼンテーション資料に記載した将来予想は、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき当社が判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

※実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがありますことをご承知おき下さい。

※実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動（主に米ドル／円相場、ユーロ／円相場、インドルピー／円相場）などが含まれます。